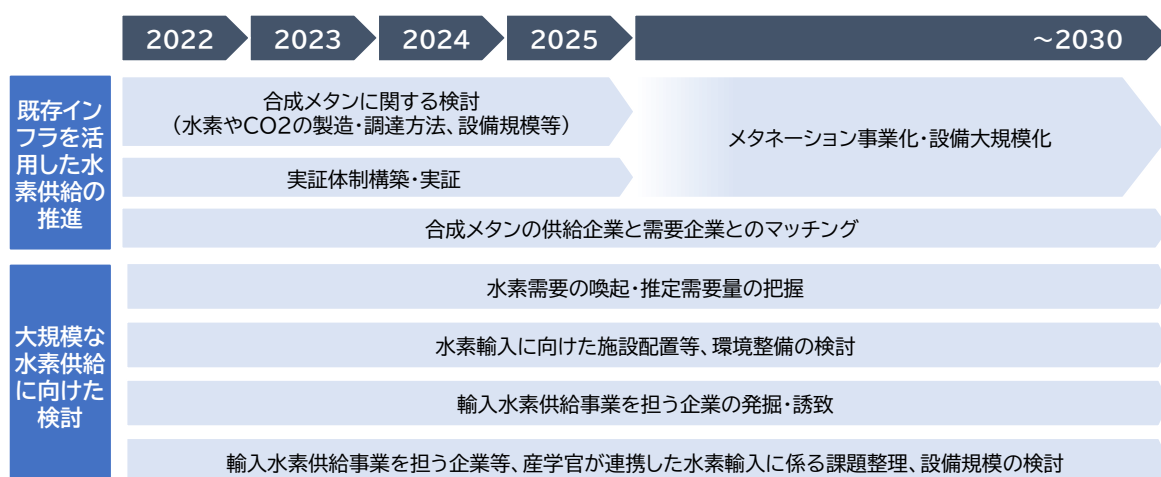


(ii) 大規模な水素供給に向けた検討 【市】【企業】【大学等】

2030年以降の大規模な水素需要の拡大に向けて、2030年以降の大規模な水素供給の拠点を目指し、安定的かつ経済性の高い水素の供給体制の構築に係る検討を進めます。

具体的には、今後策定予定の「北九州港カーボンニュートラルポート形成計画」において、水素需要の喚起・推定需要量の把握や、海外水素の受け入れに必要な施設の配置等の環境整備の検討を行います。また、国際的なサプライチェーンの構築に向けて、輸入水素供給事業を担う企業の発掘・誘致を行うとともに、産学官が連携して課題整理や設備規模等の検討を進めます。

(iii) ロードマップ (2030年度)



(iv) 取組指標 (2030年度)

項目	取組指標
都市ガスへの合成メタン注入	1%
輸入水素供給を担う企業の発掘・誘致	1件

③ 水素需要の喚起に向けた検討

(i) 市内水素を活用した水素の需要喚起とマッチング 【市】【企業】

本市には、副生水素が発生する工場があるとともに、再エネの余剰電力を活用した水素製造プロジェクトが見込まれています。これらの副生水素・再エネ水素を活用し、水素利活用に関心のある企業と水素を供給する企業とのマッチングを進めることによって、水素関連プロジェクトを創出

し、水素需要の拡大と水素利活用を促進します。

市内で進められている水素製造実証等の事業化可能性を検討するとともに、上述のマッチングを通じた需要の掘り起こしによる需要拡大を図ることによって、2025年までの水素の供給開始を目指します。

## (ii) ゼロカーボン物流の形成 【市】【企業】【他地域】

ゼロカーボン物流の形成に向けて、陸上輸送と海上輸送の脱炭素化に向けた取組を推進します。

陸上輸送については、水素利用と自動運転等の先進技術を組み合わせた長距離輸送用のFC<sup>19</sup>トラック等の活用を促進するとともに、地域内の近距離の物流においてはEVを活用した脱炭素化を進めていきます。これによって、物流の脱炭素化だけではなく、労働力不足の解消及び物流コストの低減など、複数の課題を同時に解決していくことを目指します。

具体的には、企業と連携して、FCトラック導入に向けた実証事業等を推進します。当面は、中～長距離複数拠点間でのFCトラックの実証に向けて準備を進めます。加えて、市内企業のFCトラックのニーズを掘り起こし、FCトラックが商用化した段階で、市内輸送用のFCトラック導入を促進します。

また、自動運転等の実証に取り組み、実用化を後押しします。2025年頃以降を目途に、先進技術を持つ企業等とのマッチング等を通じて自動運転等の実証を実施することを目指します。

加えて、ゼロカーボン物流の形成に向けては、将来的には複数拠点間での輸送にも取り組むことが重要であることから、他地域とも連携して広域的な取組を進めていきます。

さらに、FCトラックを用いた物流網の形成に向けて、本州・九州をつなぐ物流の結節点における大型FCトラック向けの水素ステーションの整備等、水素供給インフラの検討を企業とともに進めます。

海上輸送については、水素燃料船の運航に必要な水素が供給可能な企業とのマッチング等を通じて、FC船や水素エンジン船等の水素燃料船の導入に係る事業形成を推進します。